

松ヶ崎遺跡から出土した円筒上層式土器

中 村 哲 也

1 はじめに

松ヶ崎遺跡は、八戸市の南東部、新井田川と松館側に挟まれた段丘上に位置する。本遺跡は古くから著名で、昭和32年には江坂輝彌氏により発掘調査が実施された（江坂 1957）。西側には隣接して西長根遺跡が所在する。この二つの遺跡は、古くは地点貝塚として認識されていたため、個別の遺跡として台帳登録されていたが実際には同一の遺跡である。遺跡の範囲は東西約400m、南北約400mの範囲である。遺跡付近は一部で宅地化が進み、個人住宅の建設や、八戸市南霊園の造成に伴い発掘調査が実施され、次第にその様相が明らかになりつつあるが、遺跡の全容は未だ不明な点が多い。そこで、本稿では松ヶ崎遺跡から出土した円筒上層式土器を紹介し、遺跡の変遷に関する知見を追加するものである。

2 既往の調査

松ヶ崎遺跡・西長根遺跡のこれまでの調査を一覧表にまとめた。（文献番号は参考文献に対応）

番号	調査年	遺跡名	調査主体	検出遺構	調査面積	時期（出土遺物）	文献
1	1957	松ヶ崎	江坂輝彌	貝塚	不明	円筒下層	1
2	1957	西長根	江坂輝彌	貝塚	不明	円筒上層	1
3	1966	松ヶ崎	滝澤幸長	地点貝塚 包含層	2 17㎡	円筒下層 d 円筒上層 a 円筒上層 c 円筒上層 d 後期	2
4	1967	松ヶ崎	音喜多富寿 松山 力	住居跡 貯蔵穴	1 1	約100㎡ 中期・後期	3
5	1993	松ヶ崎	八戸市教育 委員会	竪穴住居跡 竪穴遺構 土坑 屋外炉	25 1 3 3	225㎡ 円筒上層 d 円筒上層 e 榎林 最花	4
6	1994	松ヶ崎A	八戸市教育 委員会	なし	24㎡	古代	5
		松ヶ崎B		なし	24㎡	中期～後期	5
		松ヶ崎C		竪穴住居跡 土坑 屋外炉 柱穴状ピット	16 6 1	155㎡ 円筒上層 e 榎林 最花	6
7	1992	西長根	八戸市教育 委員会	竪穴住居跡 土坑 屋外炉 捨て場	24 37 1 1	1,780㎡ 円筒上層 c 円筒上層 d 円筒上層 e 榎林 最花	5
8	1997	西長根	八戸市教育 委員会	竪穴住居跡 土坑 土坑墓	11 33 8	200㎡ 円筒上層 b 円筒上層 c 円筒上層 d 円筒上層 e 榎林 最花	7

9	1998	松ヶ崎	八戸市教育委員会	土坑	1	50m ²	円筒上層 a	8
10	1999	松ヶ崎	青森県埋蔵文化財調査センター	土坑	5	3,900m ²	中期後葉～後期初頭 十腰内 I	10
11	1999	西長根	八戸市教育委員会	竪穴住居跡 土坑	2 2	200m ²	円筒上層 c 円筒上層 d 円筒上層 e 榎林 最花	9
12	2000	松ヶ崎	八戸市教育委員会	竪穴住居跡 竪穴遺構 土坑 柱穴状ピット	1 1 27 1	191m ²	円筒下層 d 大木10式平行期 十腰内 I 式	11
13	2001	松ヶ崎A	八戸市教育委員会	竪穴住居跡 土坑	2 28	324m ²	円筒下層 d 円筒上層 a 円筒上層 c 円筒上層 d	12
		松ヶ崎B (試掘)		遺構多数		310m ²	円筒上層 d 円筒上層 e 最花	

3 出土土器の紹介

紹介する土器は、八戸市十日市字西の立花勲氏が自身の所有する畑から出土したものを八戸市教育委員会文化課の村木淳氏に寄贈したものである。筆者は平成11年度に同遺跡を発掘調査する機会があり、その際、報告書に掲載する条件で村木氏から預かったが報告書作成時には、紙数等の制約で掲載することがかなわなかったため、本稿で紹介するものである。

出土した土器は9個体分である。1は波状口縁を呈する。文様帯は口縁部の狭い範囲に限られ、下端は1条の隆帯で区切られている。口唇部には1条の隆帯が巡り、波頂部からは2条の隆帯が垂下する。隆帯上にはLR原体の側面圧痕が施される。口縁部文様帯にはLR原体の側面圧痕による平行線文間にC字状（あるいは馬蹄形）のLR原体による側面圧痕が施されている。胴部には羽状縄文結束第1種が横位に施されている。

2は二股の突起により波状口縁が形成される。文様帯の区画のあり方は、1と同様である。口縁部文様帯にはLR原体の側面圧痕による平行線文間にC字状文（馬蹄形圧痕）が施される。隆帯上にはLR原体による側面圧痕が施される。胴部はLR原体が横位回転されている。

3は平縁で、口唇部と頸部に1条の隆帯を巡らし、文様帯を区画する点は1・2と同様だが、文様帯内は網目状の隆帯が施されている。4・5・7・8・10・11・12は口縁部片で、隆帯と、棒状工具による刺突が施されている。13～17は胴部片で、文様はLR原体の横位回転か羽状状文結束第1種の横位回転である。

土器の時期は1・2が円筒上層 a 式～b 式、3が円筒上層 b 式～c 式、6～8・9～12が円筒上層 c 式と考えられる。すべて円筒上層式前半のものである。なお、1・2を円筒上層 b 式に限定しない理由は、従来円筒上層 a 式とされてきたものとC字状（馬蹄形）圧痕が相伴することが確実で（小笠原2002 青森県教育委員会2001・2003）、口縁部文様の中の単位文様のみが型式を弁別する基準にはなりえず、一方でそれ以外の諸属性の区分点が共通理解になっているとは考えにくいからである。

4 集落の変遷

2で取り上げたこれまでの調査の位置を図に示した。ただし、上表中3・4は位置の特定が困難であった。また、1・2は位置不明である。遺跡の範囲は、西は新井田川に面する段丘崖付近まで、東は台地東部の沢地形までである。占地のあり方には大きく3段階の画期が認められる。

第1期 前期～円筒上層c式期

第2期 円筒上層c式期～最花式期

第3期 (大木10式)～後期初頭

第1期は前期から円筒上層c式までで、遺跡の東部を主に占めている。第2図中の4・9、および本稿掲載遺物出土地点が該当する。遺構の分布状況は未だ不明な点が多いが、音喜多・松山(1967)八戸市教育委員会(2001)を参照すれば、住居・土坑が近接して存在するようで、集中的な土地利用がうかがえる。

第2期は円筒上層d式～最花式期までで、遺跡の西半部に占地しているようである。多数の遺構が重複し、集中的な利用の痕跡が伺える。一方、遺跡南西方の弥次郎窪遺跡では、住居跡が検出されず、土坑が20基前後分布する。遺跡周縁部のあり方を示していると思われる。

第3期は大木10式平行期以降で、松ヶ崎・西長根遺跡の範囲では、活動痕跡があまり認められなくなる。大木10式平行期かその直後の住居跡は、第2図中の12で検出されているが、それ以前の遺跡西半部の集中的な利用とは対照的である。これに近い時期の住居は遺跡東方約250mに位置する黒坂遺跡(青森県教委委員会 1998)で10軒が検出されているが、住居跡数は第2期のそれとは大きな隔たりがありそうである。また、蛭沢式等と称される時期～十腰内I式期の可能性が高い住居(8軒)・土坑(63基)は遺跡南西方の弥次郎窪遺跡で検出されている。

5 周辺の集落の動態

松ヶ崎遺跡周辺には、同時期の遺跡が多数知られている。図3に、周辺の縄文時代中期の遺跡(一部後期を含む)を示した。青森県遺跡地図に縄文時代中期の記載のあるもの・報告書で縄文時代中期の遺構・遺物が掲載されたものを掲載した。付近は、新井田・松館川により形成された段丘地形が発達しており、それぞれの段丘を支谷が解析し、それぞれ独立した台地を形成している。蟹沢遺跡・重地遺跡は前期末葉～中期の集落遺跡として知られている。一王寺(1)遺跡では前期末葉～中期後葉、後期前葉の遺物が出土している。それぞれの台地ごとに同時期の遺跡が存在する状況を見て取ることができる。松ヶ崎遺跡の所在する台地では、大木10式平行期以降、占地や、土地利用の集中度が大きく変化することを指摘したが、他の台地ではそのような変化は十分に確認できていない。新井田川左岸の新田遺跡では、大木10式期の集落の存在が予測され、松ヶ崎遺跡と同様な変化が起きた可能性も考えられよう。

6. 終わりに

本稿では松ヶ崎遺跡採集遺物を紹介し、遺跡の変遷について予察を行った。松ヶ崎遺跡を含む八戸市南部域は、縄文時代中期の遺跡分布が密で、遺跡の動態をとらえる上で興味深い。全容が明らかでない遺跡が多いので、発掘調査の進展を待つ一方、遺物の出土位置を丹念に追跡することで、ある程度の見通しを得ることも必要であろう。

参考文献

- 1 江坂輝彌 1956 「十日市貝塚群出土の鳥獣魚骨から見た縄文文化の食糧資源」『奥南史苑』1
青森県文化財保護協会八戸支部
- 2 音喜多富寿・松山力 1969 「八戸市松ヶ崎遺跡調査報告書」(青焼き 22p)
- 3 滝沢幸長 1967 「八戸市十日市松ヶ崎貝塚」
- 4 八戸市教育委員会 1994 「八戸市内遺跡発掘調査報告書6」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第60集
- 5 八戸市教育委員会 1995 「八戸市内遺跡発掘調査報告書7」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第61集
- 6 八戸市教育委員会 1996 「八戸市内遺跡発掘調査報告書8」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第65集
- 7 八戸市教育委員会 1999 「西長根遺跡－平成9年度発掘調査－」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第80集
- 8 八戸市教育委員会 1999 「八戸市内遺跡発掘調査報告書11」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第87集
- 9 八戸市教育委員会 2000 「八戸市内遺跡発掘調査報告書12」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第83集
- 10 青森県教育委員会 2000 「松ヶ崎遺跡」青森県埋蔵文化財調査報告書第291集
- 11 八戸市教育委員会 2001 「八戸市内遺跡発掘調査報告書13」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第87集
- 12 八戸市教育委員会 2002 「八戸市内遺跡発掘調査報告書14」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第87集
- 八戸市教育委員会 1997 「八戸市内遺跡発掘調査報告書9」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第87集
- 八戸市教育委員会 1998 「八戸市内遺跡発掘調査報告書10」 八戸市埋蔵文化財調査報告書第87集
- 八戸市教育委員会 1981 『是川仲居・堀田遺跡発掘調査報告書』八戸市埋蔵文化財調査報告書第5集
- 青森県教育委員会 1998 『青森県遺跡地図』
- 1998 『弥次郎窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第238集
- 2000 『黒坂遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第291集
- 2001 『笹ノ沢(2)・(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第305集
- 2003 『笹ノ沢(3)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第346集
- 小笠原雅行 2002 「第四章 第2節道具 1. 土器」『青森県史 別編 三内丸山遺跡』青森県

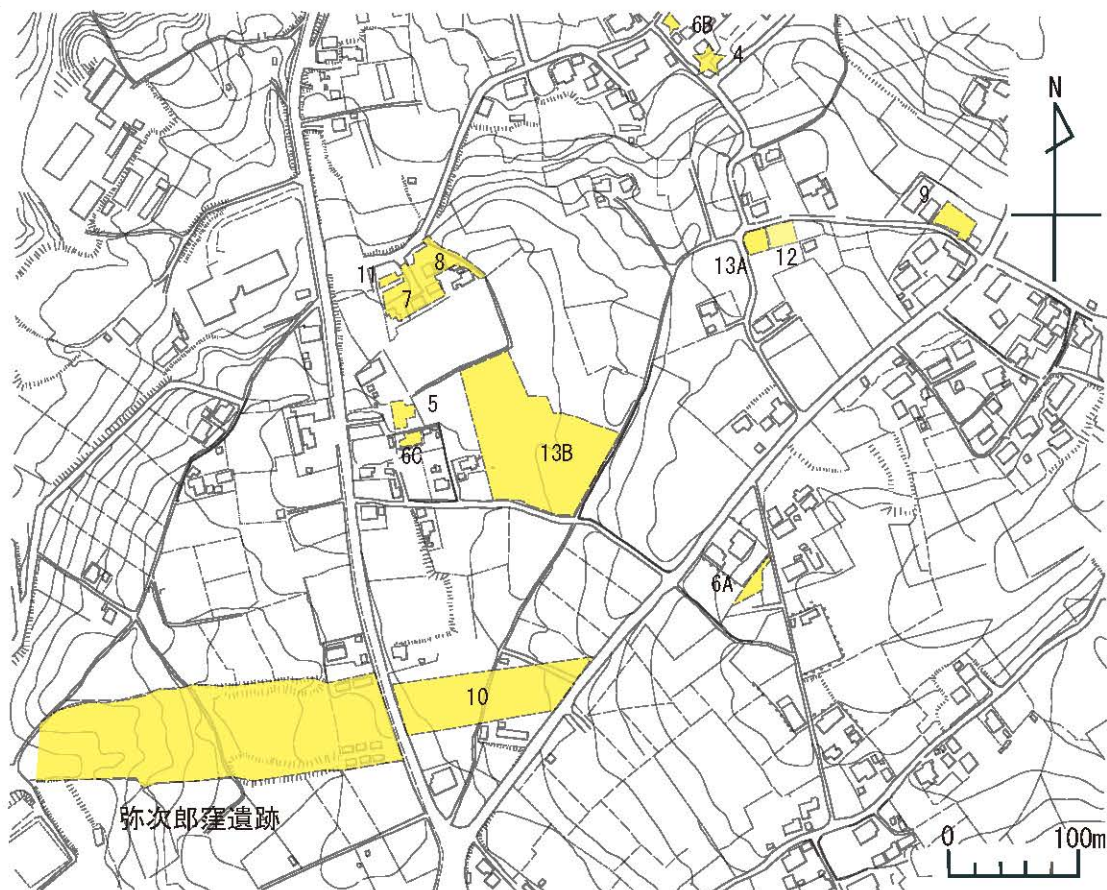


図1 松ヶ崎遺跡調査区位置図 (S=1/5,000)

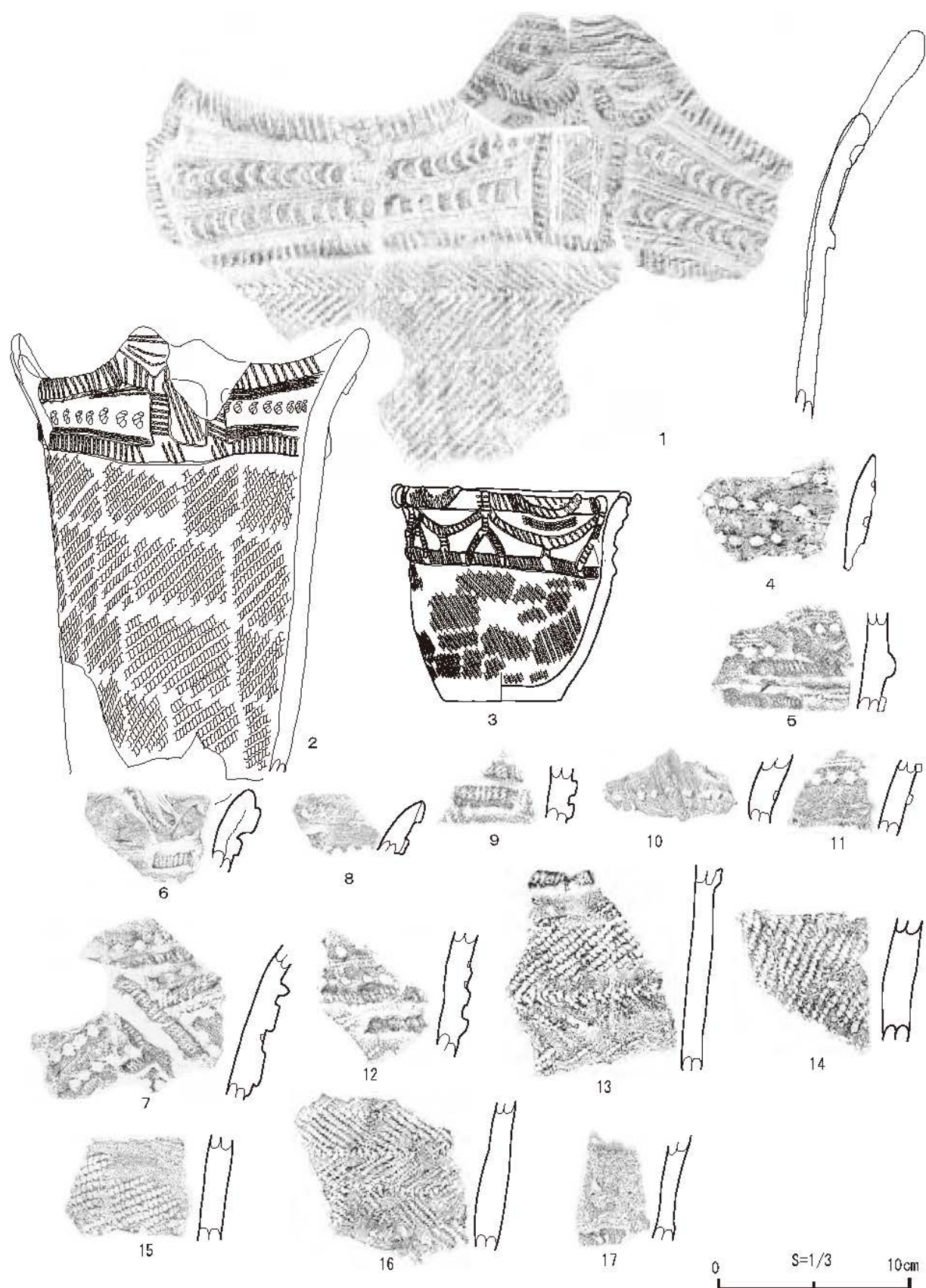


图2 採集土器実測図

